

〈寄稿：流域紀行〉

日本の流域を旅する ー全国 47 都道府県レクチャー行脚ー

大西 文秀*

はじめに

昨年発行された、流域圏学会誌、第2巻第2号に掲載された、寄稿：流域紀行「エルワ川と世界最大級の生態系再生プロジェクト～大型ダム撤去直後の姿～」(押谷優、浦安慧、西谷博子、木村博子、村上雅博)にたいへん興味を持ちました。以前から私も、川を旅して、流域紀行を書いてみたいと思っていました。しかし事前勉強が苦手で精緻な紀行文は難しいため、当稿では、流域と私の馴れ初めをお話し、写真紀行からスタートさせていただきます。

流域圏学会には、川や谷が好きな方がたくさんおられることでしょう。

私が川や谷が好きになったのは、小学生の頃でした。街の中に暮らしており、近くにきれいな川があったからではありません。しかし当時は、へら釣り、はす釣り、あゆ釣り、あまご釣り、いわな釣りなどの、川釣りや溪流釣りを楽しむ人が多く、私の父も、はす釣り、あゆ釣り、あまご釣りが好きでした。

小学生の頃から、あまごを釣りに、父に連れられ、熊野川(新宮川)水系の北山川の源流の谷へよく行きました。いつの間にか川や谷や流域が好きになり、卒業論文は、あまごを釣りによく行く、熊野川水系の北山川の源流域の、奈良県上北山村と下北山村で行いました。卒論の調査より、川であそんでいた思い出が多く残っています。

北山川水系での卒論が楽しくて、修士課程に進み、流域の環境容量をテーマにした修論を完成させました。そして就職して、15年経った1992年に、リオの地球環境サミットが開催され、地球環境の保全に対する気運も高まりました。勤務先の竹中工務店でも、地球環境保全のための活動が始まり、修士論文を発展させる機会を得ました。

進化した地理情報システム(GIS)のお陰で、データベースの構築から、多様な解析やマップ化、また可視化など、独創的で学際的な活用が可能になり、研究がスムーズに進み、企業の社会貢献活動に寄与するとともに、修士論文から22年経て、博士論文をまとめることができました。

その後、公的な研究機関や環境系学会やNPOとの交流も進みました。またこの間には、書籍出版や研究発表や講演、また所属学会で受賞することができました。2012年春の定年退職後も、ヒト自然系GISラボとして、流域圏のヒトと自然の関係をテーマにした環境系の学会活動や出版活動は、変わることなく継続しています。

実は2年ほど前から、新しいライフワークとして、「全国47都道府県レクチャー行脚」という、100～150枚のGISパワーポイントを使用した、大学授業での講義や、学会や研究会での講師をボランティアで進めています。いろんな地方へお邪魔でき、その折には、その地方の河川を見て歩くことを日課にし、前日か前々日の早朝に夜行深夜バスで現地に入り、川めぐりを楽しんでいます。昨年の高知工科大学での流域圏学会の時には、早朝から、仁淀川を12キロほどさかのぼり、クタクタになったところを路線バスに助けてもらいました。また、浦安慧さん、押谷優さんにも愛車で案内してもらえ感謝しています。これからも、ヒトと自然の旅、流域の旅を続けたいと思っています。

本稿では、1. 黒部川、2. 相模川、3. 北上川、4. 天竜川(諏訪湖)、5. 大野川、6. 肝属川、7. 仁淀川、8. 手取川、9. 穂高川、10. 犀川で撮った写真をご紹介します。また各流域や水系の概要は、拙著「流域圏からみた日本の環境容量」(2013年、大西文秀)などを参考にさせていただければ幸いです。

*ヒト自然系GISラボ 〒630-0133 奈良県生駒市あすか野南2-6-17

1. 黒部川（富山県 下の廊下と源流付近、黒部川上流～源流、青春時代によく行った時の写真、1975 年夏と初冬）



黒部川 下の廊下



2. 相模川（厚木市 あゆみ橋付近、中流、水源は山中湖 相模湾へ注ぐ、厚木に住む山の大先輩と、2013 年 6 月）



三方を橋や高架道路に囲まれた相模川



晴れていれば大山が望めるとのこと、残念



3. 北上川（岩手県 盛岡市、開運橋付近、北上川上流、予想外れの笹濁りで岩手山も見えず残念、2013 年 6 月）



北上川上流に立地する盛岡市 開運橋



晴れば岩手山がすぐそこに見える



笹濁りの北上川

4. 天竜川（長野県 諏訪湖付近、天竜川上流、諏訪湖湖畔の信州大学花里孝幸研究室訪問時の写真、2013 年 11 月）



信州大学山地水環境教育研究センター（右の建物）



諏訪湖への流入河川は 30 超、流出河川は天竜川のみ

5. 大野川（大分県 竹田市～豊後大野市付近、大野川中流、阿蘇山からの湧水地が多い、2013 年 11 月）



竹田市の湧水



犬養大橋付近



犬養大橋

6. 肝属川（鹿児島県 肝属町付近、肝属川河口、全国の一級水系の最後の水系番号 109 番の水系、2013 年 11 月）



水系番号 109 番の肝属川を見ることができ感無量



遥か遠くに稜線が見える平坦な流域



肝属川 河口付近

7. 仁淀川（高知県 いの町～柳瀬付近、仁淀川中流、美しい大河川に感激、流域圏学会にて、2013 年 9 月）



8. 手取川（石川県 川北町～鶴来付近、手取川下流～中流、地元の老人曰く「昔は白砂の川だった」、2014 年 6 月）



9. 穂高川（信濃川水系上流、長野県安曇野市 穂高付近、北アルプス常念山脈から湧水群を流れる、2013 年夏冬）



複合扇状地の湧水群を流れ、わさび畑が点在



常念岳や有明山から流れる

10. 犀川（信濃川水系上流、長野県安曇野市 白鳥湖付近、水源は上高地 長野市で千曲川に合流、2013 年 12 月）



吹雪の犀川



例年は1000羽以上の白鳥が飛来、この年は約600羽

